

---

仮

螢雪

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】  
仮

【Nコード】  
N9129N

【作者名】  
螢雪

【あらすじ】  
ある日稀有な能力に目覚めた少女。

自分に課せられた役目がなんなのか、悩みながらも奔走し成長していく。

## 正夢

私の名前は早見千夏。高校二年生。

華の青春真つ最中の美少女！……とはいかず、彼氏もいないまま退屈な授業をこなすだけの日常。

夢見る乙女は今も夢の中…。

「ちー。ちーっ！ちなっっ！」

「ほえ…？」

夢の世界から舞い戻った私が目にしたのは親友の姿。

「ほえ、じゃないっ！また授業中に寝てたっ！今日の授業はもう終わったよっ！」

この鬼のような形相で叫んでいるのは来栖紗理奈。私の親友で、いつも一緒にいる。

今日の朝も一緒に登校して、授業が始まるまでお喋りしてた。それで、授業が始まってから……あれ？

「一時限目の記憶がない」

「でしようね。ついでに二時限も三時限も四時限も五時限も六時限もないでしようね」

「やだなー、さーちゃん。二時限目はまだ始まってないよー」

「……とっくに終わってますっ！」

こんな会話も珍しくはなく、私はよく寝入ってしまうことがある。そのときは決まって夢を見るのだが、たいていは忘れてしまっただけにしている。

だけど、今日は違った。夢を覚えている。少し気にはなっただけど、私は帰り支度を済ませ、さーちゃんと帰途についた。

さーちゃんと一緒に電車に乗り込んだが、彼女は私より前の駅で降りていた。

そして私は、いつも通り目を閉じて……。

「ん……」

どのくらい時間が過ぎただろうか。目を覚ますと、車内の電光掲示板は見知らぬ駅名を表示している。

あちゃー、寝過ぎしちゃったか。

次の駅で降りようと、立ち上がりながら荷物を肩にかけたとき、私は違和感に気付いた。

見慣れない駅名。にも関わらず、私はこの駅を知っている。

昔なにかで見たのか。なにせ乗り換えなしで行ける距離だ。

そう思ったが、それだけでは片付かない。見たのは最近だ。でもいつ……？

考えながらドアの前に立ったとき、通り過ぎる背景の中に高そうな車が走っているのを見た。

珍しい車だな、外車かな。そう思った瞬間、思い出した。

私が授業中に見た夢。その夢の始まりは、電車の中であの見慣れない駅名を見たところから始まった。

そして、今しがた見た見た外車を横目に、今と同じ感想を抱いた。

私は冷や汗を流した。夢の通りこのまま進めば……。

私は進行方向へ視線を移す。その瞬間、電車が大きく揺れ背景がひっくり返った。

カーブを曲がりきれず脱線し横転する電車の中で、私は意識を失った。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n9129n/>

---

仮

2010年10月11日02時44分発行